ときめきサイエンス

WEIRD SCIENCE



ときめきサイエンス







WEIRD SCIENCE

ユニヴァーサル映画

UIP配給

UNITED INTERNATIONAL PICTURES





かいせつ

それは正に夢のような出来事だった。学校では女の子に声もかけられない、内気な2人のコンピューター少年が、ふとしたことからハイレベルの教養とセンス、あふれるばかりの美貌と理想的なスタイルを兼ね備えた、パーフェクトな女性を創り上げてしまったのだ！

クラスメートの女の子にも無視されている高校生のゲイリーとワイアットは、ある日「フランケンシュタイン」をテレビで見ていて、凄いことを思いついた。女の子に相手にされないのなら、この際コンピューターに恋人役を演じてもらおう……!?自分達好みのあらゆる情報をインプットした途端、稲妻が家を包み込み、気がついたときには、目の前に魅惑的な女性が立っていた。なんと、2人がインプットした情報をすべてクリアーした〝パーフェクトな女性〟が、彼女だったのだ。高い知性と広い教養を身につけたこの美女は、創造者であるゲイリーとワイアットを〝落ちこぼれから学校一のヒーローに変身させる〟というプロジェクトを密かに考えつく。2人の主人にはあくまで従順ながら、周囲も驚く大胆さで、このコケティッシュな美女は行動を開始した！

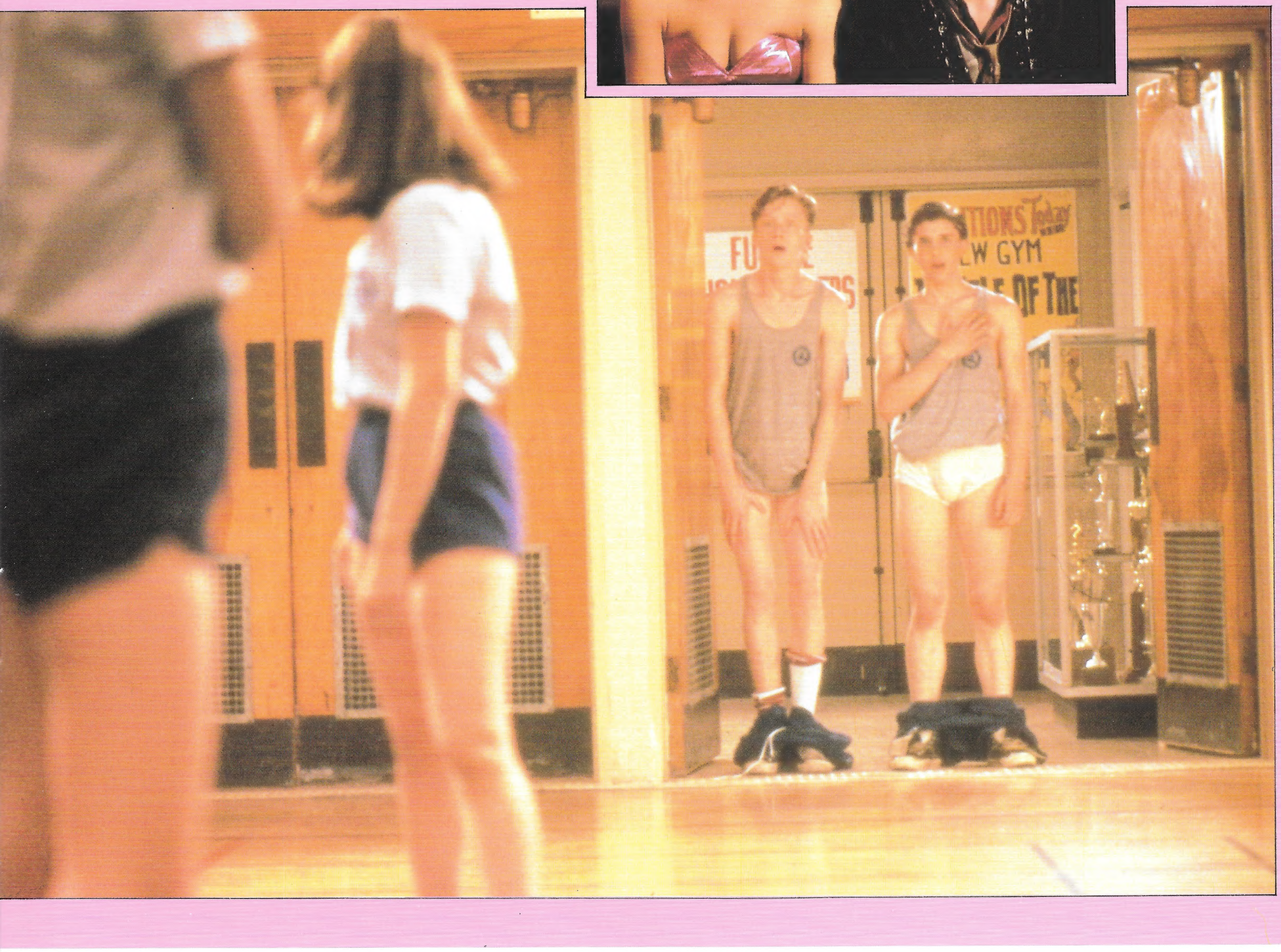
いつの時代でも変わらない、胸躍るような少年達の夢を、爽快なユーモアセンスとハイテク時代にふさわしいスタイリッシュな感覚で描く、ロマンチックSFアドベンチャーの登場である。

パーフェクトな美女を演じるのは、ジーン・ワイルダー監督作「ウーマン・イン・レッド」でヒロインを演じ、一大センセーションを巻き起こしたケリー・ルブロック。そのデビュー作1本でスターの仲間入りを果たしたルブロックは、今回、少年達を相手に前作以上にキュートなお色気を披露してくれる。彼女を創り上げる2人のコンピューター少年には、「ホリデーロード4000キロ」でチェビー・チェイスの息子役を好演し、出演作が相次いでいるアンソニー・マイケル・ホールと、バレエ・ダンサーとしても将来期待されているイラン・ミッチェル=スミス。また、ワイアットの兄チェットには「ストリート・オブ・ファイア」のビル・パクストンが扮している他、「家族の絆」のロバート・ドゥニー、ロバート・ラスラーらが見事な演技アンサンブルを奏でている。

監督・脚本は、「すてきな片想い」や「ブレックファスト・クラブ」など青春映画で定評のあるジョン・ヒューズ。音楽は「ブルース・ブラザース」のアイラ・ニューボーン、撮影は「コマンドー」のマット・レオネッティ、SFXは「2010年」のヘンリー・ミラー、特殊メイクは「E.T.」のクレイグ・リアドン、製作は「コマンドー」「48時間」のヒットメーカー、ジョエル・シルバー。

（1985年度ユニヴァーサル映画・UIP配給、ヒューズ／シルバー・プロ製作、テクニカラー、ビスタサイズ、6巻2580m、上映時間1時間34分）



ものがたり

高校生のゲイリー（アンソニー・マイケル・ホール）とワイアット（イラン・ミッチェル=スミス）は、スポーツマン・タイプではなく、人気者にはほど遠い存在で女の子達に全く無視されている。２人は放課後の体育館で体操のトレーニングに励む女の子達を見ては、あらぬ夢想をし続けているが、それもクラスメートに目撃され、トランクスを下げられて下着姿を女の子達に披露してしまうほどのドジ。

まあ、いつものことと割り切って、ゲイリーの部屋でポップコーンを食べながら、テレビで「フランケンシュタイン」を見ていたワイアットは、凄いアイデアを思いつく。フランケンシュタイン博士のように、自分たちも人間を創造しようというのだ。ただちょっと違うのは、２人が創ろうとしているのは“理想の女性”ということ。早速、週刊誌に載っているゴージャスな写真をはじめ、あらゆる知識をゲイリーのコンピューターにインプット。と、その時、突然雷を伴った嵐に襲われ、ゲイリーの家は稲妻に包まれた。驚く２人の前に、もっと驚く現実が！なんと、彼らの情報を完全にマスターした、完璧な美女が現れたのだ。

驚きながらも胸ときめかせる２人の心を知ってか知らずか、その美女は“一緒に楽しみたいんでしょ”と言って、２人をバス・ルームに招き入れた。最初からパーフェクトだと、ニンマリするゲイリー達。都合のいいことに両親は月曜日まで帰って来ない。今日はまだ金曜日だ。

ゲイリーやワイアットの想像以上に、この美女はあらゆる能力を兼ね備えたスーパーガールだった。ポンコツ車を一瞬にして新車に変えたり、人間の記憶を自由に操作できたり、動作を停止させることだってできる。２人は彼女にリサ（ケリー・ルブロック）という名前をつけ、街につれて行く。リサのコケティッシュな魅力が男達を悩殺するという事実を、ゲイリーやワイアットはいやというほど思い知らされる。バーで男達の視線を独り占めしたリサと一緒にいたせいで、ゲイリーはバーボンを飲み過ぎて酔ってしまう。ワイアットにおくられて彼の家に泊りに行くと、そこには、腕力を誇りとし、人の弱味につけこんで金をせびるワイアットの兄チェット（ビル・パクストン）がいた。案の定、ワイアットにすりよってきて、酔っぱらったことは両親に話さないから金をよこせと、弟を脅迫。一方、疲れきって横になるゲイリーにはリサが近よってきて夢のようなキス……。

兄にいじめられているだけでなく、クラスメートからも冷たい扱いをされているゲイリーとワイアット。行く先々で、そんな主人の姿を何日も見続けたリサは、ワイアットの家でパーティを開くことにする。彼女は密かに、２人の若き主人をヒーローにする作戦を練っていたのだ。

しかし、問題は山積みだ。ゲイリーの両親は夜のパーティに行ってもいいという許可を出してくれそうもないし、料理だってどうしたらいいのかわからない。だいたい友達が来てくれるだろうか──すべての問題はリサのおかげで解消。ゲイリーやワイアットの心配を吹きとばすように、パーティ会場は人、人、人の波で熱気に包まれた。



パーティが一段と盛り上がったにもかかわらず、ゲイリーやワイアットの人気はイマイチ……どころか前のまま。このままでは２人の未来は真暗だ。業を煮やしたリサは、マッドマックスまっ青のモヒカン刈りの暴走族をパーティ会場に乱入させる。階段、キッチンなど、辺りかまわず走り回る暴走族を、ただ茫然と見つめるだけでそれを止める勇気のある者は誰もいない。ゲイリーやワイアットとて例外ではない。傍若無人な暴走族の行為は増々エスカレート。遂には、ゲイリーとワイアットが交際を求めていた２人の女の子を連れ去ると言い出した。

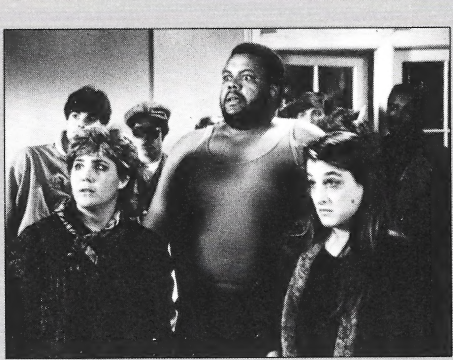
男を上げるのは今だ、ゲイリーとワイアット！しかし、リサの思惑どおりに２人はなかなか動かない。いったい、パーティはどうなるのやら……！？





















WEIRD SCIENCE

ときめきサイエンス





プロダクション・ノート



●立入禁止のセット

プロデューサーのジョエル・シルバーは、この作品の撮影が開始された時、リチャード・プライヤー主演の「マイナー・ブラザース／史上最大の賭け」のポスト・プロダクションに関わっていた。しかし、ヒューズ監督との連絡は欠かさず、討論をし繰り返して製作に備えた。

シルバーは以下のように語る。

「ジョン（ヒューズ）と私は〝驚かす〟要素が不可欠と考えたため、セットを立入禁止にしようと決めた。ジョンの豊かな想像力のお陰で、映画全篇に途方もない見事な効果が表れている。その内容を口外されたり、記事にされたりして、未知のものに対する観客の期待を半減するようなことがあってはならないと感じたからだ」



●〝ゼロ〟から〝ヒーロー〟へ

ヒューズ監督は物語の詳細を語ることは避けているが、この映画を次のように説明している。

「物語は家の中で起こる。これは、ロマンスあり、アクションやスタントあり、ＳＦＸを満載したテクニカルな映画だ。しかし、そこには人間の心も描かれている。主人公の若者達は初めのうち腕白少年がやるような遊びに夢中になっているが、その結果、予期せぬことに女性への理解を深めるようになる。彼女は若者達のペットではなく、彼等の生活に適応しようとそこに現れたのだ。映画のラストで、若者達はひとかどの人物になる。リサは彼等を〝ゼロ〟から〝ヒーロー〟に成長させるのだ」

●途方もないことをやろうというのが合言葉

オレゴン州に住み、今回スタジオに〝通勤〟したＳＦＸ担当のヘンリー・ミラーは次のように語る。

「我々は観客の度肝を抜くものを作りたかった。だからＳＦＸをふんだんに使った。少々変わっているのは、殆どすべてがコミカルな効果だという点だ。観客が恐怖のあまり席から飛び上がるようなシーンはひとつもない。もっとも、ＳＦＸの素晴らしさに驚いて客席から飛び上がってくれるなら有難いがね。この映画は、少々ぞくっとさせる箇所もあるが、観客に恐怖を与えることは意図されていない。観客を笑わすことが目的なのだ」



コメディにＳＦＸを用いることは、他のＳＦＸ映画の場合とそれほど変わらない、とミラーは言う。

「どの映画もそれぞれ独自のチャレンジの場を我々に与える。『2010年』をやったが、あれはあれなりに難題があった。この映画にも独自の問題がある。でも、それらは皆違う。コメディにしろ、シリアスな作品にしろ、どれが最も困難か、答えることはできない。個人的に言えば、コメディの方が風変わりなことができるから好きだ（たとえば本篇の中の〝ピアノ〟のシーン）。コメディでは何でもやってのけられる。とりわけ、ジョンのような監督とジョエルのようなプロデューサーと仕事をする場合はそうだ。２人とも非常に若いため、一か八かの勝負を自ら進んでやるからだ。途方もないことをやろうというのが合言葉だからね」









●アイデアは楽しみながら

この作品は、特殊メイク効果も駆使されている。指揮に当ったクレイグ・リアドンは「ポルターガイスト」「E.T.」「トワイライト・ゾーン」を手掛けたベテラン。

「映画では悪者に何が起こるか見所のひとつになるが、ジョン・ヒューズのアイデアは普通と違っていた。だから、私はこの仕事を引き受けたのだ。今回の仕事は本当に愉快だった。登場人物がコミカルな性質を持つため、楽しみながらアイデアを考えることができた。容易とは言えないが、それほど問題が多かったわけではない。なぜなら、我々の特殊メイク効果の基礎の大半は、『2001年宇宙の旅』でスタンリー・キューブリックが既に築いていたものだからね。ジェームズ・ギャグニーが『真夏の夜の夢』でボトムを演じて以来、長い歳月が経過したが、その種の効果をジョンは我々に求めていた。当時と較べ、今日はあらゆることが技術的にあまりにも洗練されているため、メイク効果は観客に対する申し分ない説得力を持つのだ」



アンソニー・マイケル・ホール(ANTHONY MICHAEL HALL)



ヒューズ監督と共に仕事をするのは「すてきな片想い」「ブレックファスト・クラブ」に続き、今回が３度目。

ボストン生まれ。ケニー・ロジャーズ主演の「幸福のチェッカー」で映画デビューを飾り、「ホリデーロード4000キロ」でチェビー・チェイスの息子役を演じる。後者の脚本を手掛けたのがヒューズで、以後２人は非常に親しくなった。

母親が歌手だったため、ホールは幼い頃から芸能界を垣間見てきた。８歳か９歳の頃、自分の意志で芝居をやるようになり、以後、順調に俳優の道を歩んでいる。

現在、家族と一緒にニューヨークに住んでいる。

イラン・ミッチェル＝スミス(ILAN MITCHELL-SMTH)



小さい頃からバレエを学び、８歳の時には既に週４日のレッスンをこなしていた。14歳の時、スクール・オブ・アメリカン・バレエの奨学金を獲得した。

やがて、キャスティング・エージェントに引き抜かれ、〝Daniel〞で映画デビュー。ティモシー・ハットンの少年時代の役を演じた。続いて〝The Wild Life〞に出演。バレエの勉強も並行して続けていた。目下、ダンサーと俳優のどちらの道を選ぶか、決断に迷っているところだという。

ワイアット役に選ばれたのは、本読みテストでアンソニー・マイケル・ホールとの息がぴったり合ったから。ちなみにヒューズ監督はその時まだ彼の出演映画を観ていなかった。

ケリー・ルブロック(KELLY LeBROCK)



「ときめきサイエンス」はモデルから女優に転向したルブロックにとって、試金石とも言える作品。

ニューヨーク生まれ。ロンドンで育つ。モデルの仕事を始めたのは16歳の時。それ以来、トップモデルとして活躍した。

以前から映画界からの誘いも多かったが、彼女はすべて断わり続けて来た。ところが、夫がプロデューサーだったことから、ジーン・ワイルダーの目に止まり、スクリーン・テストもなく、「ウーマン・イン・レッド」のタイトルロールで映画デビュー。センセーショナルな話題を巻き起こした。

まだ自分の演技には自信がないが、今後も少しずつ経験を積み重ねて、より大きな女優に成長したいという。

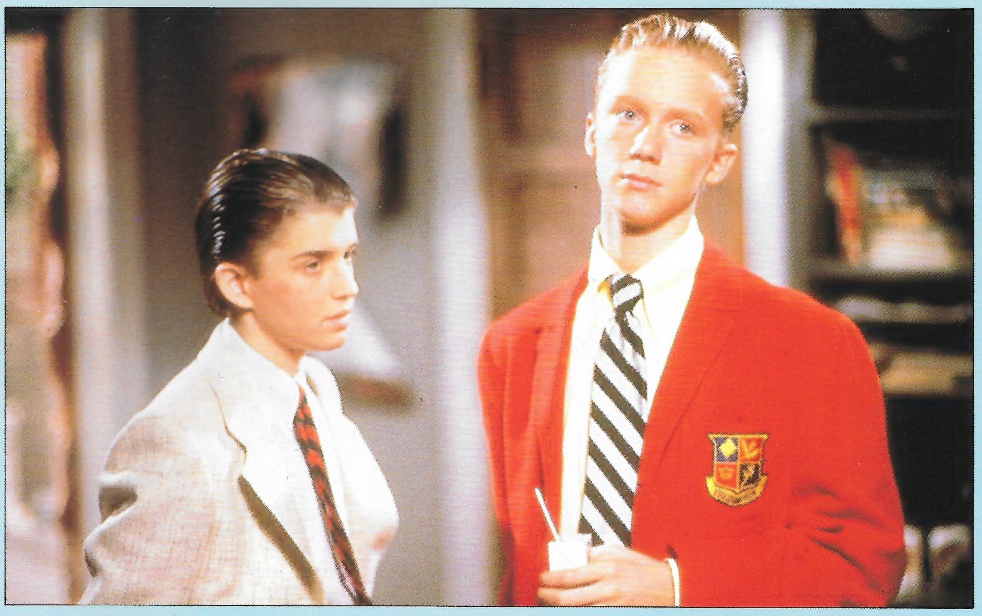
ビル・パクストン(BILL PAXTON)



弟いじめに快感を覚えるサディスティックな兄貴役を演じているが、本来の彼はハンサムで愛想が良く、映画のチェット役のイメージとはかなりかけ離れている。

俳優になる前は、セット・デコレーターなど、映画の裏方の仕事をしていた。

俳優になりたての頃は、〝Night Warning〞や〝Mortuary〞などのホラー映画に出演していたが、近作では「ストリート・オブ・ファイア」('84)、「ターミネーター」('85)で活躍している。







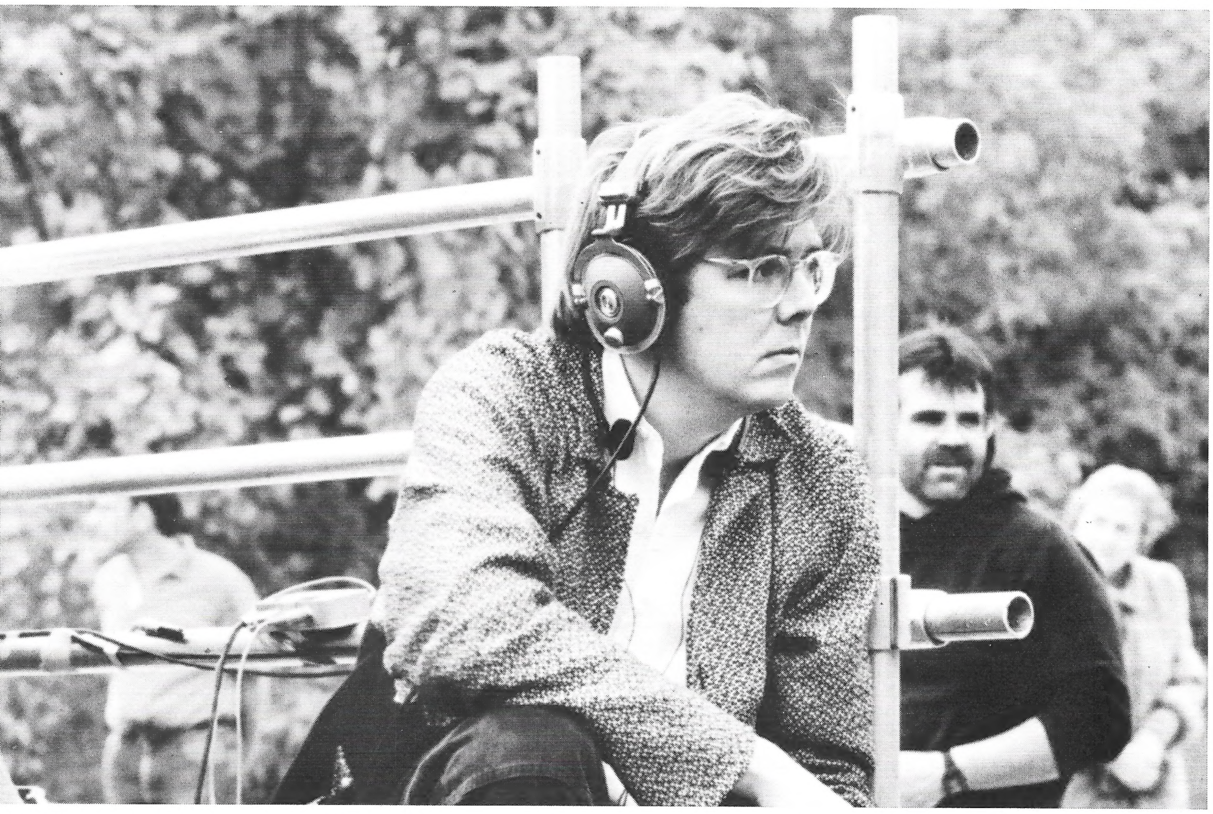

U
S

監督 ジョン・ヒューズ(JOHN HUGHES)

ミシガン州ランシング生まれ。学校を出てから広告代理店に勤める一方、夜は作家として成功する日々を夢見ていた。しかし夢を実現すべく、妻や2人の息子の理解と応援を得てサラリーマンをやめた。

〝プレイボーイ〟〝ナショナル・ランプーン〟といった有名雑誌にフリー・ライターとして寄稿するうちに、その腕を見込まれて編集の仕事を任されるようになった。

この頃より映画のシナリオにも取りかかるようになり、82年『National Lampoon's Class Reunion』でデビューを飾った。この時の評判で次々と映画の仕事が舞い込むことになり、その豊かな才能は、ついに84年「すてきな片想い」で監督としてデビューするに至った。スピード作家と言われるほどシナリオの執筆日数は早い。アメリカ映画の期待の新人である。(代表作)「ブレックファスト・クラブ」('85)「ミスター・マム」('83)(シナリオのみ)



撮影中のジョン・ヒューズ監督

製作 ジョエル・シルバー(JOEL SILVER)

今、ハリウッドで最も多忙なプロデューサーのひとりである。現にこの映画の撮影時には、「マイナー・ブラザース/史上最大の賭け」、「コマンドー」と同時に3作品の製作に関わっていた。

子供の頃からいつも映画館に足を運び、フィルムメーカーになることを夢見ていた。

ニューヨーク映画大学を卒業し、短篇映画を製作、その後映画業界で仕事をするようになった。

オリビア・ニュートン・ジョン主演のミュージカル・ファンタジー「ザナドゥ」('81)の共同製作、ウォルター・ヒル監督の「ザ・ドライバー」('78)、「48時間」、「ストリート・オブ・ファイヤー」('84) などの製作を手掛けている。

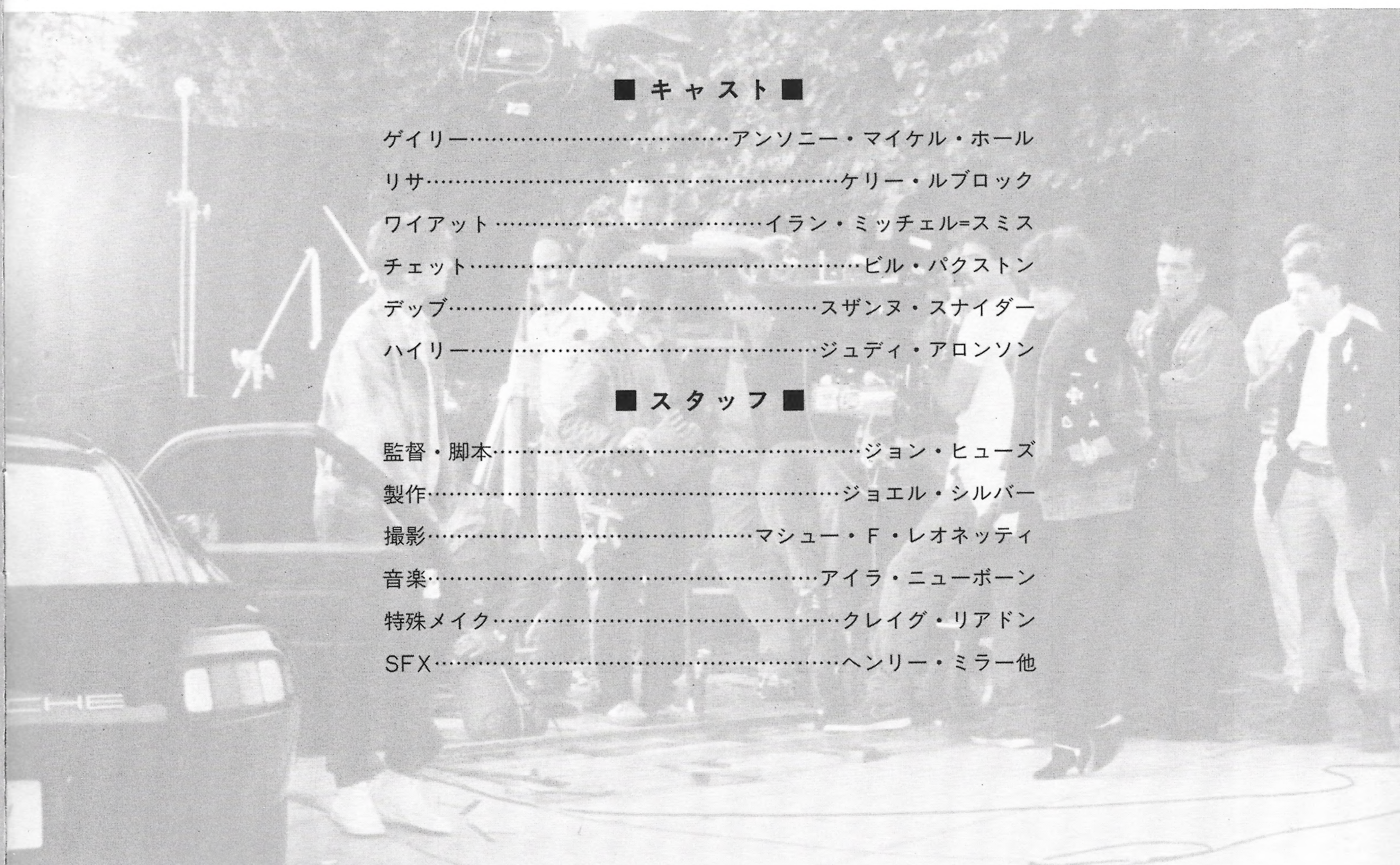
■CAST■

Gary……ANTHONY MICHAEL HALL
Lisa……KELLY LeBROCK
Wyatt……ILAN MITCHELL-SMITH
Chet……BILL PAXTON
Deb……SUZANNE SNYDER
Hilly……JUDIE ARONSON

■STAFF■

Directed & ScreenPlay……JOHN HUGHES
Produced by……JOEL SILVER
Director of Photography……MATTHEW F. LEONETTI, A.S.C.
Music by……IRA NEWBORN
Special Make-Up Created by……CRAIG REARDON
SFX……HENRY MILLER

WEIRD SCIECE



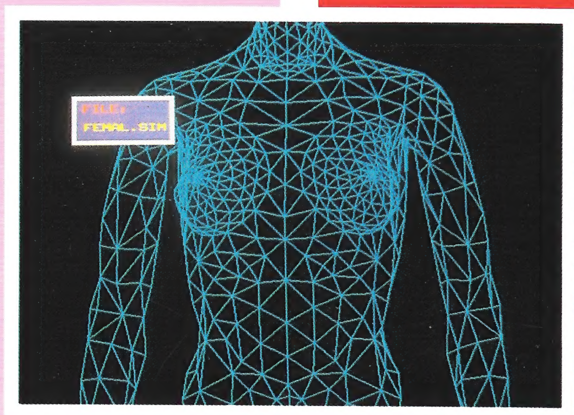
■キャスト■

ゲイリー……アンソニー・マイケル・ホール
リサ……ケリー・ルブロック
ワイアット……イラン・ミッチェル=スミス
チェット……ビル・パクストン
デッブ……スザンヌ・スナイダー
ハイリー……ジュディ・アロンソン

■スタッフ■

監督・脚本……ジョン・ヒューズ
製作……ジョエル・シルバー
撮影……マシュー・F・レオネッティ
音楽……アイラ・ニューボーン
特殊メイク……クレイグ・リアドン
SFX……ヘンリー・ミラー他

製作・提供/スティック・インターナショナル株式会社　東京都中央区京橋3丁目9番9号　和ビル5F
発行/松竹株式会社 事業部　東京都中央区築地1丁目13番5号
定価 300円


FILE:
FEMAL.SIM